

# まちのスケッチブック

夢をかたちに…あたらしいまちづくり VOL-10

泉佐野市議会議員 **千代松 大耕** (28歳)

## 新しい時代の政治を創る。



私は2年前に市政に上がらせてもらいました。その時から「政治に携わるもの、政治家の仕事というものは、自分の中であらゆる政策判断に対して優先順位を決め、それを遂行していき、多くの方々から夢と希望を託してもらえよう社会をつくっていくこと」と考えております。現在泉佐野市には「危機的な財政状況」「青少年の心の病」「新世紀の行政課題」「環境問題への対策」「未完成の都市基盤整備」といった多くの問題が山積しております。その中でもこの2年間、泉佐野市の優先順位のトップには、危機的な財政状況を打破し、何とんでも赤字再建団体転落だけは回避するという、財政再建がきておりました。そういつた中で問題を先送りせず、泉佐野市の構造改革に着手する新田谷市政を支え

の道筋が見えてきたところであり、しかし財政健全化というのは市民の生活を守りぬく、ふるさと泉佐野を守りぬくという意味では当然のことであって、それ以外にも多くの市民の方々に託される夢と希望というのは二十一世紀に入ってから益々多様化してきております。特に泉佐野市の場合は今まで蓄積されてきた社会資源があり、そういったこともあって市民の方々のニーズは福祉、教育等の分野で拡がりをみせております。これからは財政再建という流れの中にあっても、出きる限り市民の方々の夢と希望に添えていく、その調和を図りながら「新しい時代の泉佐野市のかたち」を決めていかなければなりません。そのための重点政策目標として次の6点を掲げております。

て参りました。そして昨年には泉佐野市行政改革推進計画第2次実施計画が策定され、財政再建への一定

### Pol.1

「新しい時代の二十一世紀型行財政システムの確立」

平成十四年度から泉佐野市では、事務事業の簡素化、迅速化を図るため、財務会計システムが導入されます。今後新しい時代の自治体運営を行なうために、行政評価システム、バランスシート、環境ISO14001などの導入や情報化を積極的に図り、二十一世紀型の行財政システムを構築します。また市町村合併を見据えた広域行政を推進し、関西空港と一体となつたまちづくりに取り組みます。

### Pol.3

「泉佐野市の教育を抜本的に変革」

新学習指導要領に基づき、週五日制が十四年度から完全実施されます。このように教育の大きな転換期の中、泉佐野市をこれから背負って立つ世代の健全なる育成のために、戦後教育を根本から見直して、新しい時代の骨太の教育に改めていきます。また歪な通学区の再編、老朽化した学校施設の改善、教育委員会改革、地域・家庭との連携を深める取り組みに努めます。

### Pol.2

「新規産業の育成・誘致と地元産業・商業の振興」

長引く景気低迷の煽りを受け、泉佐野市の税収も大幅な減少傾向にあり、泉佐野市の産業構造も大きく変化してきております。これからは新しい時代の経済活性化の原動力となると言われているベンチャー企業を育成・誘致する制度を確立するとともに、歴史のある地元産業・商業、そして泉佐野市ならではの観光資源の振興に力を尽くし、未完成の都市基盤を充実させ関西空港の玄関口にふさわしいまちづくりを実現します。

### Pol.4

「バリアフリーを目標としたまちづくり」

公共施設、交通機関等のバリアフリー化を推進し、高齢の方々が障害をもつ方々が安心して暮らせる、やさしいまちづくりを進めていきます。また現在、住民が主体となり行なっているさまざまな催し、スポーツなどが各地であります。自治体としてもそういった取り組みを支援することで、世代間等の垣根を越えてふれあうことが出来るまちづくりを目指し、地域の活発化に努めます。

「りんくうタウン  
を世界に発信！」

泉佐野市の財政難の大きな要因としてりんくうタウンの未成熟が挙げられます。りんくうタウンに「大学」等の人が恒久的に集まる施設を誘致して、産・官・学が一体となったまちづくりによる活性化を図るとともに、例えば日本初の公道サーキットといった起爆剤的なイベントを誘致する取り組みを行ない、りんくうタウンを世界に発信します。

## 「市民参画と開かれた政治の実現」

多様化する行政ニーズに対応するために、「パブリックコメント制度」や「市民公募」などの政策決定に反映出来る市民参画をすすめる、市民・行政・議会が一体となってまちづくりを行える体制づくりやネットワークの構築を目指します。また議員の義務として議会情報を積極的に開示し、市民の方々への説明責任を果たします。

## 夢をかたちに(2)

## 産・官・学の連携によるまちづくり

私は以前からりんくうタウンを活性化させる方策としてある一つのことを考えていました。りんくうタウンに大学を誘致することです。大学が来たことによって「まち」が活気づいた例は同志社大学の京田辺市や立命館大学の草津市の例にみられるように多くあります。京都府の京田辺市は以前まで田辺町というまちでありましたが、大学がきたことにより市制をひけるまでの人口増加と活性化がありました。キャンパスが出来て20年近くなりますが今だ、発展は終わっていません。新たに多くの波及する経済活動がいつてくるのです。「子どもが少なくなって来ている時代に大学を新たにつくるなんて」と疑問を唱える方も多くいますが、現在は社会人をしながら大学や大学院に通う人が増加しています。生涯キャリアアップというニーズが年々高まりつつある中で、若い世代と生涯学習のニーズに対応できる大学をつくれれば十分にやっていると考えます。大学で実践力をつけた学生が、ベンチャービジネスを起そうというのなら、地元自治体は審査会などを開いて可能性がありそうなら補助する制度を考えます。りんくうタウンのビルは残念ながら多くのテナントが空いていて、そういった場所をインキュベーションやオフィスとして貸し出し、そしてその学生がベンチャーを成功させたなら地元への還元を考えてくれればいいのであります。またそういった連携以外にも大阪府立大学のキャンパスがある堺市では、府立大学との連携事業として「産・学共同研究フェア」「技術開発相談会」などの取り組みに対して補助金を組んでいます。「産・学共同研究フェア」に来場した泉佐野市の企業が府立大学のインキュベーション施設に入居した例というのものもあるそうです。このように産(企業)・官(自治体)・学(大学)が一体となって行うまちづくりが私の夢であります。

## 千代松大耕プロフィール

- 1973.10.3 泉佐野市松原生まれ
- 1986.3 泉佐野市立第一小学校卒業
- 1989.3 泉佐野市立佐野中学校卒業
- 1992.3 同志社香里高等学校卒業
- 1996.3 同志社大学経済学部卒業
- 1998.7 米国Lincoln University 大学院経営学修士課程修了
- 1999.4 株式会社 堀場製作所 入社
- 2000.2 泉佐野市議会議員初当選

現在 泉佐野市議会議員  
 自由民主党泉佐野支部政務調査会長  
 社団法人 泉佐野青年会議所会員  
 同志社大学体育会アメリカンフットボール部OB会常任理事  
 大阪府立大学大学院経済学研究科博士前期課程(社会人コース)在学中